

### アクションプログラム

#### 1 音楽のまち・かわさきの推進 【達成状況区分 4】

##### 【主な実施結果】

##### 音楽のまちづくりの推進

- ・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の実施するイベントや情報発信にあたり、関係団体との調整や広報等について支援を行いました。
- ・「アジア交流音楽祭 2011」交流ステージを開催しました。
- ・「モントルージャズフェスティバル」について、テレビ・ラジオ及びポスター・チラシ配布等の広報支援、フリーライブ開催に向けての調整・支援等を行いました。また、東扇島東公園での大型民間音楽イベントなどの広報支援を行い、民間等と連携した「音楽のまちづくり」を推進しました。
- ・瀋陽市との姉妹都市提携 30 周年を記念した交流コンサートを 3 箇所で開催（来場者 686 人）し、両市の交流と市民の瀋陽市への理解を深めました。
- ・東京交響楽団による市内巡回公演を実施し、良質な音楽に触れる機会を提供しました。
- ・震災の影響によりミュージア川崎シンフォニーホールが被災したことから「フェスタサマーミュージア」は代替会場を確保し、市内施設（音楽大学、市民館等）で開催し、13,331 人の来場がありました。

##### 【震災の影響による取組】

- ・アジア交流音楽祭メインステージと「交流の響き」は、震災の影響を受け中止としました。両イベントの次年度開催に向け代替会場等の調整を行いました。
- ・ミュージア川崎シンフォニーホールが被害を受けことから「フェスタサマーミュージア」「名曲全集」「ランチ&ナイトコンサート」を市内公共施設や音楽大学等において代替公演を行うことにより、市民に良質な音楽を提供するとともに「音楽のまち・かわさき」のより一層の推進を図りました。また、モントルージャズフェスティバルも、代替会場の調整を行いました。
- ・ミュージア川崎シンフォニーホールでの海外オーケストラによる演奏会は、震災により中止となったことから、公演中止についてや、ホール再開後における海外オーケストラによる演奏会実施について、ホームページや市政だよりに掲載するなど広報支援を行いました。
- ・ミュージア川崎シンフォニーホールの中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調査については、ホールが被害を受けたため、まず復旧に向けた取組を行うこととし、被害調査を財団法人日本建築防災協会に依頼し、8月に中間報告書の提出を受けました。6月議会で工事の補正予算議案、9月議会で工事議案が可決され、平成 25 年 4 月 1 日のリニューアルオープンに向け、復旧工事を進めました。

##### 【課題と今後の取組】

- ・ミュージア川崎シンフォニーホールの休館中も、市内公共施設をはじめ、音楽大学や企業のホールにおいて、「アジア交流音楽祭」「交流の響き」「フェスタサマーミュージア」等の代替公演を実施し、「音楽のまち・かわさき」の灯を絶やすことなく、市民に良質な音楽を提供します。また、平成 25 年 4 月 1 日のリニューアルオープンに向けて、関係者と調整を図りながら、ホールの復旧に向けた取組を着実に進めていきます。
- ・「音楽のまち・かわさき」推進協議会や民間等と連携した「音楽のまちづくり」を推進していきます。
- ・オーストリア・ザルツブルク市との国際音楽文化交流事業について実施に向けての取組を着実に進めていきます。また、東京交響楽団による巡回公演も実施します。

**2 映像のまち・かわさきの推進 【達成状況区分 3】****【主な実施結果】****映像によるまちづくりの推進**

- ・新たな連携の橋渡しや毎日映画コンクール表彰式開催において「映像のまち・かわさき」推進フォーラムを支援し、地域資源を活用した地域の活性化を推進しました。
- ・小学校の授業における映像制作を「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、日本映画大学、地域ボランティアと連携して実施し、子ども達に映像を読み解く力を養うことや人との関わりなどを学ぶ機会を提供しました。
- ・地域ボランティアに映像制作に関する説明会を行い、情報共有を図り協力体制を強化しました。
- ・「こども映像シンポジウム」を開催しました。
- ・毎日映画コンクール表彰式については、震災の影響による会場変更の調整や周知等の開催支援を行いました。また、川崎駅周辺で関連イベント（被災地復興支援を含む）を行い、まちの盛り上がりの創出と地域の活性化を図りました。

**【課題と今後における取組】**

- ・これまで進めてきた映像のまちづくりの取組にロケ地誘致の取組を加え、映像のまちづくりによる川崎の魅力発信を進めていきます。
- ・毎日映画コンクール表彰式の会場の調整を行うとともに、地域の活性化のための取組について事業内容の検証を行い、実施していきます。

## アクションプログラム

## 3 ホームタウンスポーツの振興 【達成状況区分 3】

## 【主な実施結果】

ホームタウンスポーツの推進

- ・ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した小中学生への実技指導やホームゲームへの市民招待を実施しました。また、「チャリティーふれあいスポーツフェスティバル」の開催や地域イベントへの参加も実施したことから、選手等と触れ合う機会が広がり、スポーツを通じた市の魅力発信につながりました。
- ・小中学校での巡回サッカー教室、市制記念試合への市民招待、フォトコンテストの実施等、川崎フロンターレをより「身近な市民クラブ」として、多くの市民に認知してもらう取組を推進し、後援会会員数は昨シーズンを上回りました。

総合的なスポーツ施策の推進

- ・国際陸上競技大会、トランポリンワールドカップ川崎大会等の大規模スポーツ大会を予定どおり開催し、スポーツの普及・振興を図りました。
- ・川崎市スポーツ振興基本計画については、策定に向けて準備を進めていましたが、8月に新たにスポーツ基本法が施行され、平成23年度末に策定の国のスポーツ基本計画を踏まえて市の計画を策定する必要が生じたため、計画の策定期間を平成24年度へと変更しました。
- ・関係団体等と連携し、ジュニア選手の強化・育成のための事業（指導者派遣、試合、教室等）やレクリエーション活動の普及のための事業（「あそびの日」開催）を実施しました。
- ・総合型地域スポーツクラブが新たに川崎区と宮前区に設立されたことにより、各区にクラブが設立されました（各区1クラブの設立完了）。
- ・総合型地域スポーツクラブ育成連絡協議会での情報交換や広報紙への掲載等を通じ、既存クラブ及び設立準備クラブの活動の活性化を図りました。また、関係団体や地域との連携により新たな設立準備クラブの活動が開始されました。

## 【課題と今後の取組】

- ・ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組を継続的に実施し、競技の魅力や川崎のイメージアップを図っていきます。
- ・より多くの市民に「川崎フロンターレ」を「身近な市民クラブ」として認知してもらうための働きかけを、発信方法の検討、工夫をしながら進めていきます。
- ・引き続き、一人でも多くの市民が「する」「みる」「支える」スポーツができるように、大規模大会の開催、市民参加のスポーツイベントやさまざまな年代が参加できる各種レクリエーション事業の開催を検討し実施していきます。
- ・スポーツ基本法に基づく国の「スポーツ基本計画」の策定状況を迅速に捉え、国の計画を参酌するとともに、本市のスポーツ環境、実情を踏まえ、本市の計画を策定します。

## アクションプログラム

## 4 シティセールスの推進と観光振興 【達成状況区分 3】

## 【主な実施結果】

観光の振興

- ・パンフレット、ホームページ等、多様な媒体を活用し情報発信を強化するとともに、観光情報端末・観光案内所により、来訪者への観光情報案内を実施しました。
- ・外国人観光客を誘致するため、パンフレットのリニューアル発行、外国語ホームページの更新、国際観光商談会への参加、外国人留学生モデルツアーの実施、外国メディアの招聘、羽田空港6 県市観光情報センターの共同運営、観光案内所の電話通訳の導入等を行いました。また、外国語ガイド団体と連携し、ガイドコースの設定や外国語ボランティアガイドツアー等を行いました。
- ・かわさき市民祭りを実施し、3 日間で約 56 万人の集客がありました。
- ・民間主導の産業観光ツアー及び工場夜景ツアーの継続実施に向けた施設・関係部署等との調整、教育旅行誘致活動の実施など、市内への集客に向けた取組を進めました。
- ・産業観光検定合格者を推進し、検定合格者向け産業観光ガイド養成講座を開催しました。また、産業観光検定を 3 月 11 日に実施しました。

シティセールスの推進

- ・パブリシティ活動を積極的に実施し、広告換算額で約 12 億円のメディアへの露出を得ることができました。また、新聞、情報誌等への広告掲載、パンフレットの製作・配布、プロモーションビデオの制作・放映等、さまざまなメディアやツールを活用し、本市の魅力を生市内外に発信しました。
- ・フォーリンプレスセンターとの連携による海外メディア向けプレスツアーの実施、訪日旅行者向け情報誌への情報掲載、パンフレットやプロモーションビデオの英語版作成などを通じ海外向けの情報発信を行いました。
- ・イメージアップ事業認定制度により民間と連携した魅力づくりや情報発信を進めました。

アートを活かしたまちづくりの推進

- ・「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）」実施に伴う関係機関、関係部局との連絡調整、広報等の開催支援を行いました。また、被災者・避難者の無料招待や募金活動支援を行いました。開催期間中に約 22,700 人が来場し、まちの賑わいを創出するとともに「しんゆり・芸術のまち」を生市内外に発信しました。
- ・市民ボランティアの養成を行い、文化芸術を活かしたまちづくりを支える人材育成を行いました。
- ・次回芸術祭の実行委員会を立ち上げ、多摩区を含めた広域開催に向けて関係機関や区等と連携を図りました。また、宮前区、多摩区、麻生区が一体となった文化圏の形成を目指し、川崎北部文化芸術振興連絡会議を設立・開催し、検討を始めるなど、市北部地域の文化資源を活用したまちづくりの推進を図りました。

文化芸術振興による魅力発信

- ・岡本太郎生誕 100 年記念事業の企画展及び関連イベント等を実施し、生誕 100 年「人間・岡本太郎」展は、入館者数が岡本太郎美術館歴代 2 番目となる集客力のある展覧会となりました。年間の来館者数は、前年を大きく上回り 88,000 人を超えました。
- ・岡本太郎美術館では、教育普及事業及びデジタルアーカイブ（岡本太郎に関する資料の収集、保存、調査研究等）を実施しました。また、関係部局と連携し、生田緑地の横断的な管理運営について検討を進めました。
- ・藤子・F・不二雄ミュージアムの開館に向けて、認知度・期待度を高めるため、市内を中心とした広告の掲出、プレイベントの実施、地域イベントへの参加、内覧会、開館式典の実施、パブリシティ等、戦略的に広報を実施しました。

## アクションプログラム

- ・覚書及び基本計画に基づき、寄附の受納や基盤整備等を進め、条例規則等を施行するとともに、基本協定を締結して7月15日から指定管理者による管理運営を開始し、計画どおり平成23年9月3日に藤子・F・不二雄ミュージアムを開館しました。また、開館から平成24年3月末までに307,560人の来館がありました。
- ・藤子・F・不二雄ミュージアム開館後も、広報活動を推進するとともに、緊急雇用制度を活用したミュージアム及び周辺施設の観光案内、地域と連携した取組等を推進しました。
- ・青少年科学館は、生田緑地の整備工事と連携・調整しながら新館改築、本館改修工事を実施し、平成24年3月に工事が完了しました。しかしながら、プラネタリウムの試行準備期間が当初計画よりも必要となったため、グランドオープンを平成23年度末から平成24年4月28日に変更しました。

## 東海道を活用したまちづくりの推進

- ・(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点の基本設計・実施設計を行うとともに、展示の設計を進め、駐輪場との複合施設の設計を完了しました。

## 【震災の影響による取組】

- ・国の緊急雇用創出事業として、①雇用創出②被災地支援③市内観光施設・イベントの集客向上を目的とする「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」を実施しました。具体的には、集客力のある本市のイベント開催時に東日本応援ブースを設置し、東北地方を中心とした東日本各地の名産品等を販売することにより、本市の購買力を活かした被災地の復興支援を行うとともに、東日本応援ブースにより市内イベントの更なる集客力向上につなげるというものです。平成23年度事業を通じて、約12,800千円の売上げと、市内避難者2人の雇用を実現しました。

## 【課題と今後の取組】

- ・観光協会、商工会議所、企業、近隣自治体等と連携し集客事業を実施します。観光案内所の外国語対応の検討や外国語ボランティアガイドの育成など外国人観光客の受入体制の強化を図っていきます。また、パンフレット・ホームページ等多様な媒体を活用して、観光の振興に向けた広報活動を積極的に行っていきます。
- ・平成24年度も緊急雇用創出事業として「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」を継続します。
- ・産業観光ツアー及び工場夜景ツアーについては、より一層民間主体に取り組み、効果的な広報を行う仕組みにしていく必要があります。また、各種ツアー参加者をはじめとした観光客に市内で滞在、消費してもらえる仕掛けについて検討していく必要があります。
- ・パブリシティ活動を軸とした積極的な情報発信など今後も継続・強化することで都市イメージの向上を図りながら、新しい発信手法の検討が必要です。また、イメージアップ事業認定制度による連携・支援を継続・強化し、民間と連携した魅力づくりや情報発信を進めていきます。
- ・「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」を持続発展させ、市北部地域における文化芸術の振興を図り、市民主体による文化芸術を通じたまちづくりを推進していきます。
- ・岡本太郎生誕100年の各種事業を通じて得られたさまざまな連携を活かし、岡本太郎美術館の美術館活動を推進していきます。
- ・藤子・F・不二雄ミュージアムの指定管理者による効果的・効率的な運営を推進します。
- ・新たな魅力の発信拠点として、地域等と協力したイベント・広報の実施、周辺環境の整備などに取り組み、藤子・F・不二雄ミュージアムへの愛着と興味を高めていきます。
- ・青少年科学館は平成24年4月28日のグランドオープンに向け、準備業務を円滑に実施するとともに、開館後の施設の魅力向上につながる事業展開について、関係局区、地域等と連携しながら実施します。
- ・生田緑地内の岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム、日本民家園、青少年科学館が相互に連携し、集客に向け工夫するとともに、周辺地域の魅力向上につながる取組を推進します。
- ・駐輪場との複合施設として(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点施設を整備するとともに、展示制作を進めます。

**5 多摩川プランに基づく施策の推進 【達成状況区分 3】****【主な実施結果】****多摩川プランの推進**

- ・多摩川プラン推進会議や市内会議を開催し、多摩川プランの進行管理や評価を行いました。
- ・多摩川プラン重点エリアの整備計画に基づき、広場の整備、簡易水洗トイレの設置等を行いました。
- ・旧日本ハムグラウンドの利用について、地域や各スポーツ団体との協議・調整、パブリックコメントの実施を経て、整備計画（改訂版）（案）を策定しました。
- ・平成 23 年 4 月 1 日にバーベキュー広場を開設し運営を行い、平成 24 年度からの指定管理者の選定を行いました。また、階段を設置するなどバーベキュー広場の利用環境の整備を進めました。
- ・市内 3 校の水辺の楽校については、各校独自の企画・運営による事業や青少年科学館、せせらぎ館、水防センターと連携した調査事業等が実施されました。市は 3 校合同の観察会（6 月 5 日）の事務局として、計画策定、日程調整を行うなど、3 校の交流及び連携を深める取組を進めました。また、他自治体の水辺の楽校を川崎に招いての合同観察会の計画・日程調整等を行い、観察会を市内 3 校や他自治体の水辺の楽校と協働で実施しました（6 月 12 日）。

**【課題と今後の取組】**

- ・バーベキュー広場については、引き続き、迷惑行為の低減を図るため、調査や定期的な対策会議を開催し、広場の管理運営に反映していきます。
- ・多摩川プラン重点エリアの整備については、旧日本ハムグラウンドの整備を進めていくのにあたり、施設整備だけでなく、グラウンド及び周辺の安全性確保に配慮し、利用ルールの策定についても検討していきます。
- ・市内の水辺の楽校については、増加するニーズに対応するために、せせらぎ館、水防センター、青少年科学館、市内外の水辺の楽校および国土交通省や他行政機関との連携をこれまで以上に深めていく必要があります。

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降

アクションプログラム：音楽のまち・かわさきの推進【達成状況区分： 4】

施策計画名	現状	事業内容・目標				事業推進
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降	
<p>○ 音楽のまちづくり推進事業</p> <p>「音楽のまち・かわさき」推進協議会などの民間活力を活かすことで、市内の身近な場所での良質な音楽の提供と交流による、音楽のまちづくりを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援</li> <li>●「アジア交流音楽祭」、「交流の響き」等の開催支援</li> <li>●英国・シェフィールド市との友好都市提携20周年を記念したコンサート及び写真展の開催(2010年度)</li> <li>●東京交響楽団による巡回コンサートの開催</li> <li>●「フェスタサマーミュージア」の開催</li> <li>●海外オーケストラによる演奏会の開催</li> <li>●川崎シンフォニーホール機能維持・向上のための中長期的な修繕の考え方の検討・とりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援</li> <li>●「アジア交流音楽祭」、「交流の響き」等の開催支援</li> <li>●モントルージャズフェスティバル等の開催支援</li> <li>●中華人民共和国・瀋陽市との姉妹都市提携30周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施</li> <li>●東京交響楽団による巡回コンサートの開催</li> <li>●「フェスタサマーミュージア」の開催</li> <li>●海外オーケストラによる演奏会の開催</li> <li>●川崎シンフォニーホール機能維持・向上のための中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オーストリア・ザルツブルク市との友好都市提携20周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施</li> <li>●ドイツ・リュベック市との友好都市提携20周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施</li> <li>●中長期的な修繕計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海外姉妹友好都市等との音楽等による文化交流事業の実施</li> <li>●中長期的な修繕計画に基づく予防保全型の維持補修の推進</li> </ul>	<p>事業推進</p>	

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
<p><b>2011年度 実施結果</b></p>	<p>達成状況区分 <b>4</b></p>	<p>・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の実施するイベントや情報発信などにあたり、関係団体との調整や広報等について支援を行いました。</p> <p>・「アジア交流音楽祭2011」交流ステージを開催しました。アジア交流音楽祭メインステージと「交流の響き」は、震災の影響を受け、協議の上中止としましたが、両イベントとも、次年度開催に向け、代替会場等の調整を行いました。</p> <p>・「モントルージャズフェスティバル」について、テレビ・ラジオ及びポスター・チラシ配布等の広報支援、フリーライブ開催に向けての調整・支援等を行いました。また、東京交響楽団キッズプログラムや東扇島東公園での大型民間音楽イベントなどの広報支援を行い、民間等と連携した「音楽のまちづくり」を推進しました。</p> <p>・協議会と連携し、川崎警察署「振込み詐欺防止キャンペーンソング」の制作・普及支援を行いました。</p> <p>・瀋陽市との姉妹都市提携30周年を記念した交流コンサートを昭和音楽大学、洗足学園音楽大学、ソリッドスクエアで実施(来場者686人)し、両市の交流と、市民の瀋陽市への理解を深めました。</p> <p>・東京交響楽団による市内巡回公演を順次実施し、市民に良質な音楽に触れる機会を提供しました。</p> <p>・東日本大震災の影響でミュージア川崎シンフォニーホールが被害を受けたことから、「フェスタサマーミュージア」は、代替会場を確保し、音楽大学や市民館等のホールでのコンサート、市民交流室等でこどもフェスタ、企画展示室で企画展などを実施し、13,331人の入場者がありました。また、ミュージア川崎シンフォニーホールで行っていた「名曲全集」や「ランチ&amp;ナイトコンサート」などについても、代替会場で実施しました。</p> <p>・海外オーケストラによる演奏会については、震災により公演中止になったことから、ホームページや市政だよりに掲載するなど公演中止に伴う広報支援を行いました。</p> <p>・川崎シンフォニーホールの中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調査については、ホールが被害を受けたため、まず復旧に向けた取組を行いました。</p> <p><b>【環境等の変化・課題】</b></p> <p>・東日本大震災の影響でミュージア川崎シンフォニーホールが被害を受けたことから、「フェスタサマーミュージア」、「名曲全集」、「ランチ&amp;ナイトコンサート」等を市内公共施設や音楽大学等において代替公演を実施することにより、市民に良質な音楽を提供するとともに、「音楽のまち・かわさき」のより一層の推進を図りました。</p> <p>・海外オーケストラによる演奏会については、震災により公演中止になったことから、公演中止についてや、ミュージア再開後の海外一流オーケストラによる演奏会の実施について、ホームページや市政だより等に掲載するなど広報支援を行いました。</p> <p>・ホールの中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調査については、ホールが被災したため、まず復旧に向けた取組を行うこととし、ホールの被害調査を財団法人日本建築防災協会に依頼し、8月に中間報告書の提出を受けました。6月議会で工事の補正予算議案、9月議会で工事議案が可決され、平成25年4月1日のリニューアルオープンに向け、復旧工事を進めました。</p>			

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降

アクションプログラム：映像のまち・かわさきの推進【達成状況区分： 3】

<p>○ 映像によるまちづくりの推進 本市の映像に係る地域の資源を活用し、映像関連の民間の動きとの連携による取組を進め、地域の活性化につなげることなど、映像を核としたまちづくりを推進します。</p>	<p>●「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動への支援 ●日本映画学校との連携による小学校や地域における映像制作活動への支援などを通じた人材育成に向けた取組 ●NPO法人との連携による地域ボランティアの参加支援 ●「こども映像シンポジウム」の開催 ●「毎日映画コンクール表彰式」川崎開催の支援</p>	<p>●「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動への支援 ●日本映画大学との連携による小学校や地域における映像制作活動への支援などを通じた人材育成に向けた取組 ●NPO法人との連携による地域ボランティアの参加体制の確立に向けた取組 ●「こども映像シンポジウム」の開催 ●映画コンクール表彰式川崎開催の支援</p>	<p>事業推進</p>
---	---	--	-------------

<p><b>2011年度 実施結果</b></p>	<p>達成状況区分 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな連携の橋渡しや毎日映画コンクール表彰式開催において、「映像のまち・かわさき」推進フォーラムを支援し、地域資源を活用した地域の活性化を推進しました。</li> <li>・小学校の授業における映像制作を、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、日本映画大学、地域ボランティアと連携して実施し、映像を読み解く力を養うことや人との関わりなどを学ぶ機会を提供しました。</li> <li>・日本映画大学の学生の実習機会創出に向けて、庁舎の使用について調整を進め、市施設の活用を可能とする協定を結びました。</li> <li>・地域ボランティアに映像制作に関する説明会を行い、情報共有を図り協力体制を強化しました。</li> <li>・小学校での授業における映像制作の成果を活用した「こども映像シンポジウム」を開催し、映像のまちづくりの取組を発信しました。</li> <li>・震災の影響による毎日映画コンクールの会場変更をはじめとする調整やコンクールの周知等を行いました。また、川崎駅周辺で関連イベント(映画上映会への避難者招待など被災地復興支援を含む)を行い、まちの盛り上がりの創出と地域の活性化を図りました。</li> </ul>
-------------------------------	---------------------	---

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降

アクションプログラム：ホームタウンスポーツの振興【達成状況区分： 3】

施策計画名	現状	事業内容・目標				事業推進
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降	
○ ホームタウンスポーツの推進 ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組を進め、川崎のアピール・魅力づくりを図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームタウンスポーツ推進パートナーとの連携による本市の魅力発信</li> <li>●パブリシティ活動を通じた情報発信や市広報媒体の活用などによる各パートナーのPRの実施</li> <li>●ホームタウンスポーツ推進パートナーの公式戦への市民招待の実施</li> <li>●市制記念試合等への市民招待の実施</li> <li>●小・中学校での巡回サッカー教室の開催</li> <li>●川崎フロンターレの区民祭等への参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームタウンスポーツ推進パートナーとの連携による本市の魅力発信</li> <li>●パブリシティ活動を通じた情報発信や市広報媒体の活用などによる各パートナーのPRの実施</li> <li>●ホームタウンスポーツ推進パートナーの公式戦への市民招待の実施</li> <li>●市制記念試合等への市民招待の実施</li> <li>●小・中学校での巡回サッカー教室の開催</li> <li>●川崎フロンターレの区民祭等への参加促進</li> </ul>				

<p><b>2011年度実施結果</b></p>	<p>達成状況区分</p> <p><b>3</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームタウンスポーツ推進パートナー等と連携した小中学生への実技指導やホームゲームへの市民招待(富士通レッドウェーブ、東芝ブレイブサンダース、NECレッドロケッツ)をはじめ、「チャリティーふれあいスポーツフェスティバル」の開催や地域イベント(楽大師、いいじゃんかわさき、日吉まつり等)への参加も実施したことで選手等とふれあう機会が広がり、スポーツを通じた市の魅力発信につながりました。</li> <li>・震災復興支援プロジェクトとして、ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携し「チャリティーふれあいスポーツフェスティバル」を開催し、オークションや募金活動を実施しました。収益金は「東日本大震災被災者等支援基金」へ全額寄附しました。また、ホームタウンスポーツ推進パートナーPR用のポスター作成・掲出をはじめ、東日本大震災で被災された方への応援メッセージビデオを作成し市内施設等で継続的に放映しました。</li> <li>・小・中学校での巡回サッカー教室(137回)、市制記念試合(7月9日)への1,000組の市民招待(847組、昨年度比72組増)、ふろん太くん似顔絵展を実施しました。また、フォトコンテスト「わたしの川崎フロンターレ」を初めて開催するなど、川崎フロンターレをより「身近な市民クラブ」として多くの市民に認知してもらうための取組を推進しました。</li> <li>・後援会会員募集の広報協力による支援等を行い、後援会会員数は昨シーズンを上回る24,588人(昨年度比584人増)となりました。</li> </ul>
--------------------------	-------------------------------	---





施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
<p><b>2011年度実施結果</b></p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・パンフレット、ホームページ等、多様な媒体を活用し情報発信を強化するとともに、観光情報端末、観光案内所により、来訪者への観光情報案内を実施しました。また、観光パンフレットと観光協会ホームページを相互に連動させ、タイムリーに情報を提供する仕組みを作りました。</p> <p>・外国人観光客を誘致するため、国際観光商談会への参加、外国人留学生モデルツアーの実施、外国語ホームページ・パンフレットの展開、外国メディア等の招聘、羽田空港6県市観光情報センターの共同運営、観光案内所の電話通訳の導入を行いました。また、外国語ガイド団体と連携し、ガイドコースの設定や外国語ボランティアガイドツアー等を行いました。</p> <p>・かわさき市民祭りを11月4、5、6日に開催し、約56万人の集客がありました。また、来年度の実施に向けて検討を始めました。</p> <p>・産業観光ツアー及び工場夜景ツアーを継続実施しました。</p> <p>・教育旅行誘致活動を4回(長野・北海道・北東北・九州の旅行会社を訪問しての本市産業観光のPR)実施しました。</p> <p>・産業観光パンフレットの積極的な配布や産業観光・工場夜景ホームページのリニューアルを実施し、情報発信の強化を図りました。</p> <p>・産業観光振興協議会・協議会員と産業観光学生プロモーターによるワークショップの開催など、産業観光振興協議会を活用し産業観光の推進を図りました。</p> <p>・産業観光検定合格者向け産業観光ガイド養成講座を10月21、22日に、産業観光検定を3月11日に実施しました。</p> <p>【環境等の変化・課題等】</p> <p>・東日本大震災を踏まえ、国の緊急雇用創出事業として①雇用創出②被災地支援③市内観光施設・イベントの集客向上を目的とする「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」を実施しました。具体的には、集客力のある本市のイベント開催時に東日本応援ブースを設置し、東北地方を中心とした東日本各地の名産品等を販売することにより、本市の購買力を活かした被災地の復興支援を行うというものです。平成23年度事業を通じて、約12,800千円の売上げと、市内避難者2人の雇用を実現しました。</p>				
<p>○ シティセールスの推進</p> <p>さまざまなメディアの活用や民間事業者との連携により、海外も含め、市内外に向けたシティセールスを推進します。</p>	<p>●メディアリレーションの構築とパブリシティ活動の強化</p> <p>●本市魅力情報の効果的な発信</p> <p>●イメージアップ事業の展開</p>	<p>●メディアリレーションの構築とパブリシティ活動の強化</p> <p>●本市魅力情報の効果的な発信</p> <p>●イメージアップ事業の展開</p>			<p>→ 事業推進</p>
<p><b>2011年度実施結果</b></p> <p>達成状況区分 3</p>	<p>・パブリシティ活動(各種メディアに働きかけ情報を取り上げてもらうこと)を積極的に実施し、広告換算額で約12億円のメディアへの露出を得ることができました。また、新聞、情報誌等への広告掲載、パンフレットの製作・配布、プロモーションビデオの制作・放映等、さまざまなメディアやツールを活用し、本市の魅力を市内外に発信しました。</p> <p>・主要テレビ局情報番組のロケハン・ロケ同行やニュース素材映像の提供などによりメディアリレーション(メディアとの良好な関係)の構築・強化を図りました。</p> <p>・フォーリンプレスセンターとの連携による海外メディア向けプレスツアーの実施、訪日旅行者向け情報誌への情報掲載、パンフレットやプロモーションビデオの英語版作成などを通じ海外向けの情報発信を行いました。</p> <p>・イメージアップ事業に認定された8事業について、民間活力と連携した魅力づくりや情報発信に向けて、連携・支援を行いました。また、24年度認定事業の募集・選定を行いました。</p>				

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
○ <b>アートを活かしたまちづくりの推進</b> 市民の芸術文化の創造・発信・交流を促進し、文化芸術を活かしたまちづくりを推進します。	●「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」の開催支援等による市北部地域における芸術のまちづくりの推進	●「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」の開催支援等による市北部地域における芸術のまちづくりの推進			事業推進
<b>2011年度実施結果</b>	達成状況区分 <b>3</b>	<p>・「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」実施に伴う関係機関、関係部局との連絡調整、広報等の開催支援を行いました。また、東日本大震災の被災者・避難者の方々の無料招待や募金活動支援等を行いました。開催期間中に約22,700人が来場し、まちの賑わいを創出するとともに「しんゆり・芸術のまち」を市内外に発信しました。</p> <p>・アンケート結果、企画会議、実行委員会の意見等をもとに、持続可能な事業推進体制の確立に向けた検討を行い、継続開催に向けて、次回芸術祭の実行委員会を立ち上げ、多摩区も含めた広域開催に向け、関係機関や区等と連携を図りました。また、宮前区、多摩区、麻生区が一体となった文化圏の形成を目指し、川崎北部文化芸術振興連絡会議を設立・開催し、川崎北部地域の文化資源を活用したまちづくりに向けて検討を始めました。</p> <p>・市民ボランティアの養成(アート講座の開催)を行い、文化芸術を活かしたまちづくりを支える人材育成を行いました。</p>			

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
○ 文化芸術振興による魅力発信 市内に数多くある文化芸術に関する地域の資源を活用し、文化芸術の振興を図ることにより本市が持つ魅力を発信します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岡本太郎生誕100年のイベント等の実施</li> <li>●岡本太郎美術館での展覧会を中心とした文化芸術振興事業及び教育普及事業の実施</li> <li>●岡本太郎に関する資料の収集、保存、調査研究等の実施(デジタルアーカイブ第1期)</li> <li>●生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向けた調整・検討</li> <li>●藤子・F・不二雄ミュージアムの整備</li> <li>●開館に向けた広報・イベントの実施</li> <li>●青少年科学館の改築整備着手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岡本太郎生誕100年記念事業の実施</li> <li>●岡本太郎美術館での展覧会を中心とした文化芸術振興事業及び教育普及事業の実施</li> <li>●岡本太郎に関する資料の収集、保存、調査研究等の実施(デジタルアーカイブ第2期)</li> <li>●生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向けた指定管理者制度の導入の検討</li> <li>●藤子・F・不二雄ミュージアムの開館</li> <li>●指定管理者による効率的・効果的な運営</li> <li>●新たな魅力の発信拠点としての藤子・F・不二雄ミュージアム事業の推進</li> <li>●青少年科学館改築整備完了・開館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向けた指定管理者制度の導入の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指定管理者による生田緑地の横断的管理運営の推進</li> </ul>	事業推進

2011年度  
実施結果

達成状況区分  
3

・岡本太郎生誕100年記念事業の企画展及び関連イベント等を実施し、東京国立近代美術館や市民ミュージアム等さまざまな連携の効果もあり、入館者数は前年(70,033人)を大きく上回り、88,042人となりました。また、「人間・岡本太郎展」の入館者49,076人は開館記念展に次ぐ集客力のある展覧会となりました。

・岡本太郎美術館では、教育普及事業及びデジタルアーカイブ第2期についても実施しました。  
・生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向け、民間活用推進委員会を開催し、指定管理者制度の導入が望ましいという審議結果を得るとともに、効果的・効率的な管理運営体制の推進に向けた課題等について、関係部局との調整を行いました。

・藤子・F・不二雄ミュージアムの開館に向けて、認知度・期待度を高めるため、市内を中心に広告の掲出、イベントの実施、地域イベントへの参加、内覧会、開館式典の実施、パブリシティ等、戦略的に広報を実施しました。

・覚書及び基本計画に基づき、寄附の受納や基盤整備等を進め、条例規則等を施行するとともに、基本協定を締結して7月15日から指定管理者による管理運営を開始し、計画どおり平成23年9月3日に藤子・F・不二雄ミュージアムを開館しました。また、開館から平成24年3月末までに307,560人の来館がありました。

・藤子・F・不二雄ミュージアム開館後も、広報活動を推進するとともに、緊急雇用制度を活用したミュージアム及び周辺施設の観光案内、地域と連携した取組などを推進しました。

・青少年科学館は、生田緑地の整備工事と連携・調整しながら新館(自然学習棟)改築、本館改修工事を実施し、平成24年3月に工事が完了しましたが、プラネタリウムシステムの試行等準備期間が当初計画よりも必要となったため、グランドオープンを、平成23年度末から平成24年4月28日(土)に変更しました。

【環境等の変化・課題等】

・青少年科学館の新たなプラネタリウムにおける新型メガスター投影装置・周辺システム試行等の開館準備期間が、システム開発業務の中で必要となり、円滑な博物館運営を実施するために、当初予定の平成23年度末から、平成24年4月28日(土)にグランドオープンを変更しました。

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
○ 東海道を活用したまちづくりの推進 東海道を活用したまちづくり文化・交流拠点施設の整備を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方」策定</li> <li>●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点基本計画策定</li> </ul>	●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点基本設計・実施設計	●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点整備	●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点開設	事業推進
<b>2011年度実施結果</b>	達成状況区分 <b>3</b>	・(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点の基本設計・実施設計を行うとともに、展示の設計を進め、駐輪場との複合施設の設計を完了しました。			

アクションプログラム：多摩川プランに基づく施策の推進【達成状況区分： 3】

○ 多摩川プランの推進 市民団体等と連携しながら、多摩川における豊かな河川空間の創出をめざす「多摩川プラン」の推進に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩川プラン推進会議の運営</li> <li>●二子橋、等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備</li> <li>●上平間・古市場地区周辺エリアの再整備検討</li> <li>●市内3つの水辺の楽校の設立</li> <li>●各水辺の楽校の活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩川プラン推進会議の運営</li> <li>●等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備実施</li> <li>●マラソンコースの計画的な改修工事実施</li> <li>●バーベキュー利用環境の整備実施(簡易水洗トイレの設置など)</li> <li>●バーベキュー広場(有料)の開設及び運営</li> <li>●市内3つの水辺の楽校間の交流事業の実施</li> <li>●流域の他都市の水辺の楽校等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バーベキュー利用環境の整備完了</li> <li>●指定管理者制度を導入したバーベキュー広場の運営</li> </ul>	事業推進
--	--	--	--	------

<b>2011年度実施結果</b>	達成状況区分 <b>3</b>	・多摩川プランの進行管理や評価を行うため、多摩川プラン推進会議や庁内会議を開催しました。 ・等々力・丸子橋地区周辺エリア整備について京浜河川事務所との協議を実施しました。また、旧日本ハムグラウンドの利用について、地域や各スポーツ団体との協議・調整、パブリックコメントの実施(1月30日～2月29日)を経て、整備計画(改訂版)(案)を策定しました。 ・重点エリアの整備計画に基づき、広場の整備をしたほか、簡易水洗トイレ(多摩川緑地菅地区、大師河原地区)の設置やマラソンコースの改良を行いました。 ・バーベキュー広場の開設(平成23年4月1日)及び運営を行い、指定管理者を選定しました。また、バーベキュー利用環境の整備として、アクセス経路としての階段の設置や水洗トイレの増設を行いました。 ・市内3校の水辺の楽校については、各校独自の企画・運営による事業や青少年科学館との連携によるかわさき多摩川博の調査事業等が実施されました。市は3校合同の観察会(6月5日)の事務局として、計画策定、日程調整を行うなど、3校の交流及び連携を深める取組を進めました。また、他自治体の水辺の楽校を川崎に招いての合同観察会の計画・日程調整等を行い、観察会を3校や他自治体の水辺の楽校と協働で実施しました(6月12日)。
-------------------	--------------------	---